

長崎市索道事業安全報告書

2013

(平成24年度に関する報告)



長崎市索道事業に係る安全報告書 2013

(平成24年度に関する報告)

利用者の皆様ならびに市民の皆様へ

本市の索道事業に対して、日頃のご利用とご理解、心より御礼申し上げます。

この報告書は、鉄道事業法に基づき、輸送の安全確保のための取り組みや安全の実態について、平成24年度を自ら振り返るとともに、広くご理解いただくために公表するものです。

今後も継続して輸送の安全を確保していくためにも、本書をご覧いただき、皆様からの積極的なご意見を頂戴できれば幸いです。



長崎市長 田上 富久

1. 輸送の安全を確保するための基本方針

本市の索道事業は、安全第一の意識をもって事業活動を行える体制の整備に努め、市長、管理職員及び職員の安全に係る行動規範（安全の基本理念、安全方針）は、次のとおりとしております。

- (1) 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- (4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- (5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦すること。

2. 輸送の安全確保のための安全重点施策

1 平成24年度 安全重点施策

(1) 『安全最優先・安全最重要』意識の高揚

鉄道事業法をはじめとする関係法令等及び安全管理規程をはじめとする規程類を理解し遵守することが輸送の安全の確保に繋がることを認識し、『輸送の生命は、安全最優先且つ安全最重要である』という安全意識は浸透してきている。更なるステップとして『理解すること』から『行動すること』へシフトアップし、迅速に問題解決に当たれる組織構築を目指す。

(2) 迅速な情報伝達と共有化の徹底及び双方向コミュニケーションの実践

ヒヤリ・ハット事例の報告を徹底し、抽出した事例については、原因分析並びに検証し問題解決に努める。また、他の索道施設における事故情報等を収集し、輸送の安全の確保において当該索道でも活用できる事例については、情報を共有し教訓とする。経営管理部門（長崎市）と現場実施部門（財団法人 長崎ロープウェイ・水族館）の双方向コミュニケーションを図り、輸送の安全の確保に係る情報伝達と共有化を徹底し安全性の向上に努める。

(3) 安全性向上対策の実践継続

安全基本動作（指差・喚呼・確認の一連の動作）を厳正に実行することは習慣化できてきた。

なお一層の安全性向上を確立するために、『指差・喚呼・確認』の関係（意味）を踏まえた実践を継続する。

(4) 人材育成・人材教育の推進

輸送の安全の確保するため、教育・訓練時に、知識や基本動作について徹底指導する。索道施設の保守管理・運行面だけではなく、安全マネジメントについても次世代に向けて継承に取り組む。

2 平成25年度 安全重点施策

(1) 安全確認の徹底及び安全点検の強化

利用者の増大により、運行回数が増加しており、より一層の安全基本動作の実行を徹底並びに索道設備点検を実施する。

(2) 現場実施部門と経営管理部門の情報共有化

現場実施部門（一般財団法人 長崎ロープウェイ・水族館）と経営管理部門が、相互に情報を伝達・共有し、輸送の安全確保を図る。

3. 安全目標について

1 平成24年度 安全目標

『索道運転無事故の継続』

法令並びに規程を遵守し、点検整備（始業、1月、3月、12月）を確実に実施する。

また、安全基本動作（指差・喚呼・確認の一連の動作）を徹底することで、「不安全行動」を起こさせない風土を構築し、索道運転事故0件を継続する。

※ 平成24年度も目標達成することができました。

2 平成25年度 安全目標

『索道運転無事故の継続』

法令並びに規程を遵守し、点検整備（始業、1月、3月、12月）を確実に実施する。

また、安全性向上対策を実践継続することで、「不安全行動」を起こさせない風土を構築し、索道運転事故0件

を継続する。

※安全性向上対策の実践とは、利用者の安全確保のための安全基本動作（指差・喚呼・確認の一連の動作）の徹底と作業時における係員の安全確保のための安全基本動作（指差・喚呼・確認の一連の動作）の徹底である。

※ 平成25年度も目標達成に向け取り組む所存です。

4. 事故等の発生状況及びその再発防止措置

1 事故等の発生状況について

1) 索道運転事故

索道運転事故は発生しておりません。

2) インシデント（事故の前兆）

国土交通省交通省へのインシデント報告はございません。

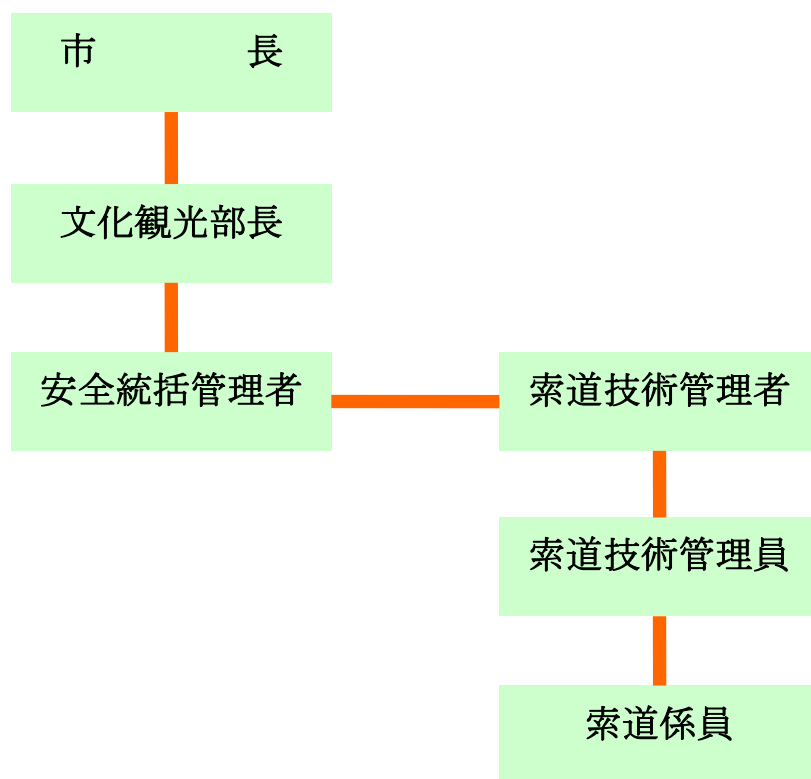
3) 行政指導

行政指導等はございません。

5. 輸送の安全確保に関する組織体制

- 1 市長は、輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
- 2 市長及び管理職員は、輸送の安全を確保するための索道事業の実施及び管理の体制を整備するとともに、索道事業の実施及び管理の方法を定めるものとする。
- 3 市長及び管理職員は、索道事業の遂行に際し、設備、運行、要員、投資、予算その他の必要な計画の策定において、次条に掲げる者その他必要な責任者に対し、安全性及び実現可能性の観点から検証を行わせる。
- 4 市長及び管理職員は、輸送の安全を確保するため、索道事業の実施及び管理の状況を把握し、必要な改善を行う。
- 5 市長及び管理職員は、輸送の安全確保に関する改善施策の決定に際しては、安全統括管理者のその職務を行う上での意見を尊重する。
- 6 市長及び管理職員は、事故、事故のおそれのある事態、災害その他輸送の安全確保に支障を及ぼすおそれのある事態（以下「事故、災害等」という。）の規模や内容等に応じ、事故対策本部の設置や責任者、対応方法その他必要な事項を定め、職員等に周知し、徹底する。

(安全管理体制図)



安全統括管理者	索道事業の輸送の安全の確保に関する業務を統括する
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮下、索道の運行の管理、索道施設の保守管理、その他技術上の事項に関する業務を統括する
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮下、索道技術管理者の業務を補助する

6. 輸送の安全確保のための取組み

1 点検、検査、整備について

関係法令及び「整備細則」等に基づき、始業点検、1月検査、3月検査、12月検査を実施しております。

2 安全に係る投資について

点検・整備につきましては以下のとおりです。

曳索・平衡索切詰



搬器走行輪交換



予備原動機点検整備



ギアカップリング (GC)

開放点検整備

KSS-242 (主電動機～主減速機間)

KSSH-400

(主減速機～原動滑車間)



軸受振動検査

超音波探傷検査



3 教育訓練等について

「運転取扱」・「予備原動機取扱」等、輸送の安全に係る教育

訓練を定期的実施しております。「整備細則」等に則った点検・整備を確実に実施するために努力しております。乗務員・駅務係につきましても、搬器内、停留場内におけるお客様の安全を最優先に救助装置の取扱・誘導案内の教育訓練を実施しております。その他、消防訓練も実施しております。



※索条の接合（ソケット加工）について、技術職以外の職員に対して教育訓練

4 緊急時対応訓練について

複線交走式普通索道におきましては、平成24年12月14日に救助訓練を実施いたしました。

7. ご連絡先

安全報告書に関するご感想、安全輸送への取組みに対するご意見をお寄せ下さい。

長崎市経済局文化観光部観光推進課

〒850-8685 長崎市桜町4-1

電話番号 095-829-1314

FAX番号 095-829-1232

(一財)長崎ロープウェイ・水族館

〒852-8011 長崎市稲佐町364-1

電話番号 095-861-6321

FAX番号 095-861-6430

E-mail info01@nagasaki-ropeway.jp